



2026年5月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2026年4月14日
東

上場会社名 株式会社テンダ 上場取引所
 コード番号 4198 URL <https://www.tenda.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役会長兼社長CEO (氏名) 菌部 晃
 問合せ先責任者 (役職名) 財務経理部長 (氏名) 福永 敦志 (TEL) 03-3590-4150
 配当支払開始予定日 —
 決算補足説明資料作成の有無 : 無
 決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2026年5月期第3四半期の連結業績(2025年6月1日~2026年2月28日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年5月期第3四半期	3,828	△7.9	127	△65.4	148	△60.9	18	△92.1
2025年5月期第3四半期	4,157	18.0	367	9.6	380	13.3	234	17.6

(注) 包括利益 2026年5月期第3四半期 52百万円(△78.3%) 2025年5月期第3四半期 243百万円(20.4%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2026年5月期第3四半期	2.78	2.75
2025年5月期第3四半期	35.47	34.87

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2026年5月期第3四半期	3,502	2,675	73.6
2025年5月期	3,876	2,794	70.5

(参考) 自己資本 2026年5月期第3四半期 2,578百万円 2025年5月期 2,731百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年5月期	—	0.00	—	27.00	27.00
2026年5月期	—	0.00	—	—	—
2026年5月期(予想)	—	—	—	22.00	22.00

(注) 1. 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

2. 2025年5月期期末配当の内訳 期末配当 22円00銭 記念配当 5円00銭

3. 2026年5月期の連結業績予想(2025年6月1日~2026年5月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	5,100	△8.5	130	△69.6	150	△66.0	30	△88.4	4.52

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更 : 無
新規 —社（社名）—
除外 —社（社名）—
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2026年5月期3Q	6,634,800株	2025年5月期	6,634,800株
② 期末自己株式数	2026年5月期3Q	217株	2025年5月期	177株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2026年5月期3Q	6,634,595株	2025年5月期3Q	6,598,371株

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー : 無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	5
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	5
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	8
四半期連結損益計算書	8
第3四半期連結累計期間	8
四半期連結包括利益計算書	9
第3四半期連結累計期間	9
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(セグメント情報等の注記)	10
(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間(2025年6月1日~2026年2月28日)における経営環境は、従来の景気循環的な変動局面とは異なり、地政学・地経学・テクノロジーの三層構造が相互に影響を及ぼしながら、企業経営の前提条件そのものを変化させる構造転換局面にあると認識しております。

地政学的には、地域間の緊張の長期化及び資源・エネルギー供給の不確実性が企業のコスト構造および事業継続性に直接的影響を与えており、地経学的には、各国の産業政策・通商政策の再編及びサプライチェーンの再構築が進行しております。これにより企業の意味決定は、従来の効率性重視から、安全性・主権・レジリエンスを内包した多面的最適化へと移行しております。

さらにテクノロジー領域においては、生成AIを中心とした技術革新により、企業競争の本質は業務効率化から「知能化による価値創出能力」へと更なるシフトをしており、DX投資はオペレーション改善ではなく、経営モデルそのものを再設計するための不可逆的な戦略投資へと進化しております。

このような環境のもと、当社グループが属するDX・IT・データ・コンテンツサービス市場は、

- ・DX投資の恒常化
- ・AI活用の本格化
- ・データドリブン経営への不可逆的移行

という3つの構造的潮流により、中長期的に底堅い成長トレンドに位置付けられております。

一方で、当社グループにおいては、前年大型案件の終了により、第2四半期においては、業績の一時的な低下が発生いたしました。しかしながら、当社はこれを外部環境要因として処理するのではなく、「特定顧客・特定案件への依存」という当社事業構造に内在していたリスクの顕在化として捉え、構造転換を実行する戦略的機会と位置付けました。

この認識に基づき、当社は当第3四半期において以下の3つの経営意思決定を実行しております。

第1に、収益構造の再設計であります。

従来のフロー型・案件依存型収益から、ライフタイムバリューを基軸とした再現性のある収益モデルへの転換を推進しております。

第2に、顧客ポートフォリオの分散化であります。

特定顧客依存からの脱却を図り、官公庁・インフラ・大手企業等への展開を通じて、需要構造の安定性と成長性を同時に確保しております。

第3に、ビジネスモデルの高度化であります。

案件単位での価値提供から、プラットフォーム及び統合ソリューションによる継続的価値創出モデルへの転換を進めております。

この結果、当第3四半期連結会計期間においては、売上高および各段階利益は前四半期比で明確に回復基調へと転じており、当社は単なる業績回復ではなく、「収益構造の質的転換を伴う再成長軌道」への回復途上にあります。

一方で、累計期間においては第2四半期決算時の一過性要因(大型案件特需の剥落)の影響により、前年同期比では減収減益となりました。特定顧客・特定案件への依存リスクについては、依然として一定の影響が残っており、完全な解消には至っておりません。当社はこの点を経営上の重要課題と認識し、案件ポートフォリオの分散とストック収益比率の向上を継続的に推進してまいります。

以上の結果、当社グループの当第3四半期連結累計期間の経営成績は、売上高は3,828百万円(前年同四半期比7.9%減)、営業利益は127百万円(前年同四半期比65.4%減)、経常利益は148百万円(前年同四半期比60.9%減)、親会社株主に帰属する四半期純利益は18百万円(前年同四半期比92.1%減)となりました。

なお、当該減益は構造的競争力の低下によるものではなく、事業構造転換および人的資本投資の加速に伴う戦略的コストの先行計上によるものであり、当社は現在、「短期利益最大化」から「中長期的キャッシュフロー創出能力の最大化」へと経営軸を明確に転換しております。

セグメントの経営成績は次のとおりであります。

(DXソリューション事業)

DXソリューション事業においては、当社の構造転換の中核として、DXプラットフォーム「TRAN-DX」を基軸とした

事業モデルへの移行を推進しております。

当第3四半期においては、

- ・案件の大型化
- ・パイプラインの多層化
- ・横展開可能なディール構造の確立

が進展し、案件創出数、実装率、ストック売上比率といったKPIにおいて、収益の再現性向上が確認されております。

これは、当社が従来の「単発案件獲得モデル」から、「継続的に価値を創出するプラットフォームモデル」へと移行しつつあることを示すものであります。

一方で、第2四半期決算時における前年の大型案件終了の影響により、当第3四半期連結累計期間の売上高は2,264百万円（前年同四半期比16.9%減）、セグメント利益は442百万円（前年同四半期比35.6%減）となりました。

しかしながら、本事業の本質的な変化は「売上規模」ではなく「収益の質」にあり、当社は再現性と拡張性を備えた成長基盤の構築を完了しつつある段階にあると認識しております。

(Techwiseコンサルティング事業)

Techwiseコンサルティング事業においては、企業のDXがデータおよびAIを中核とした経営変革へと進化していることを踏まえ、End-to-End型の統合提供モデルを確立しております。

具体的には、

- ・データ基盤 (Fabric/BI)
- ・生成AI活用
- ・セキュリティおよびガバナンス

を統合したサービス提供により、顧客企業の経営変革そのものに関与するビジネスへと高度化しております。

この結果、

- ・案件単価の上昇
- ・上流工程比率の増加
- ・継続契約率の向上

が顕在化しており、収益構造は労働集約型から知的付加価値型へとシフトしております。

また、「Dojoシリーズ」を中核とした自治体市場においては、

- ・導入自治体数の増加
- ・継続利用の進展
- ・横展開の初期成功

が確認されており、ストック型収益基盤の第2の柱として立ち上がりつつあります。

以上の結果、売上高は761百万円（前年同四半期比12.2%増）、セグメント利益は188百万円（前年同四半期比1.4%増）となりました。

(ゲームコンテンツ事業)

ゲームコンテンツ事業においては、中長期的な成長ドライバーの確立に向け、

- ・映像領域を含む新規市場の開拓
- ・ゲーミフィケーションの高度化
- ・自社IP創出

を軸としたポートフォリオ転換を推進しております。

当第3四半期においては、一部案件における取引先の事業計画変更に伴う進捗遅延により収益性に影響が生じたものの、当該影響は一過性であり、事業の成長戦略に対する影響は限定的であります。

以上の結果、売上高は802百万円（前年同四半期比8.5%増）、セグメント損失は5百万円（前年同四半期はセグメント利益44百万円）となりました。

(単位：千円)

		2026年5月期			
		1Q	2Q	3Q	3Q累計
DXソリューション事業	売上高	730,755	725,365	808,149	2,264,269
	セグメント利益	138,391	121,927	182,224	442,542
	[セグメント利益率]	18.9%	16.8%	22.5%	19.5%
Techwise コンサルティング事業	売上高	241,696	241,791	278,182	761,669
	セグメント利益	55,804	53,059	79,338	188,201
	[セグメント利益率]	23.1%	21.9%	28.5%	24.7%
ゲームコンテンツ事業	売上高	293,829	257,355	251,584	802,768
	セグメント利益	2,723	△3,968	△3,796	△5,041
	[セグメント利益率]	0.9%	△1.5%	△1.5%	△0.6%
連結合計	売上高	1,266,281	1,224,511	1,337,915	3,828,707
	営業利益	8,856	8,455	110,086	127,397
	[営業利益率]	0.7%	0.7%	8.2%	3.3%

(総括および経営の本質認識)

当第3四半期連結累計期間は、表面的には減収減益であるものの、その実態は「事業構造の不可逆的転換を実行した期間」であります。

当社は現在、

- ・案件依存型から再現性モデルへの転換
- ・フロー収益からストック収益への進化
- ・労働集約型から知的付加価値型への高度化

を同時に実現しつつあります。

その結果、当社の収益生成能力は、短期的な売上規模ではなく、「再現性」「拡張性」「資本効率」という観点において質的改善が図られております。

当社はこの状態を、「構造転換を完了し、スケーラブルな成長モデルを獲得しつつある段階」と認識しております。

今後は、この再現性ある成長モデルを基盤として、スケーリングフェーズへ移行し、中長期的な企業価値の最大化を実現してまいります。

(2) 財政状態に関する説明

財政状態については、次のとおりであります。

① 資産の部

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べ373百万円減少し、3,502百万円となりました。

(流動資産)

流動資産は、前連結会計年度末に比べ104百万円減少し、2,413百万円となりました。これは主に現金及び預金の減少が135百万円あったこと等によるものであります。

(固定資産)

固定資産は、前連結会計年度末に比べ269百万円減少し、1,089百万円となりました。これは主にのれんの減少が155百万円、投資その他の資産の減少が112百万円あったこと等によるものであります。

② 負債の部

当第3四半期連結会計期間末の負債合計は、前連結会計年度末に比べ255百万円減少し、827百万円となりました。

(流動負債)

流動負債は、前連結会計年度末に比べ219百万円減少し、675百万円となりました。これは主に前受収益の減少が149百万円、未払法人税等の減少が31百万円あったこと等によるものであります。

(固定負債)

固定負債は、前連結会計年度末に比べ35百万円減少し、152百万円となりました。これは主に長期借入金の減少が33百万円あったこと等によるものであります。

③ 純資産の部

当第3四半期連結会計期間末の純資産は、前連結会計年度末に比べ118百万円減少し、2,675百万円となりました。これは主に親会社株主に帰属する四半期純利益を18百万円計上したこと、剰余金の配当を179百万円行ったこと等によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2026年1月13日の「2026年5月期 第2四半期(中間期)決算短信〔日本基準〕(連結)」で公表いたしました通期の連結業績予想に変更はありません。

今後、連結業績予想に修正がある場合には、速やかに開示いたします。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2025年5月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2026年2月28日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,628,738	1,493,414
受取手形、売掛金及び契約資産	679,326	740,315
商品	3,075	2,700
仕掛品	3,402	28,644
貯蔵品	422	392
前払費用	195,965	137,143
その他	11,617	15,593
貸倒引当金	△4,376	△4,453
流動資産合計	2,518,171	2,413,751
固定資産		
有形固定資産	21,876	20,296
無形固定資産		
のれん	949,335	793,536
ソフトウェア	121,488	122,353
その他	615	615
無形固定資産合計	1,071,440	916,505
投資その他の資産	265,155	152,253
固定資産合計	1,358,471	1,089,055
資産合計	3,876,643	3,502,807

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2025年5月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2026年2月28日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	151,207	157,445
1年内返済予定の長期借入金	46,890	46,056
未払法人税等	53,336	22,324
前受収益	363,622	214,417
賞与引当金	14,913	11,096
その他	265,083	224,141
流動負債合計	895,053	675,481
固定負債		
長期借入金	95,232	61,524
繰延税金負債	30,297	28,306
役員退職慰労引当金	16,555	17,380
退職給付に係る負債	17,870	17,233
その他	27,620	27,620
固定負債合計	187,576	152,065
負債合計	1,082,629	827,546
純資産の部		
株主資本		
資本金	325,981	325,981
資本剰余金	792,563	792,563
利益剰余金	1,596,036	1,435,317
自己株式	△143	△171
株主資本合計	2,714,438	2,553,690
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	17,473	24,552
その他の包括利益累計額合計	17,473	24,552
新株予約権	6,905	14,674
非支配株主持分	55,195	82,343
純資産合計	2,794,013	2,675,260
負債純資産合計	3,876,643	3,502,807

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年6月1日 至 2025年2月28日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年6月1日 至 2026年2月28日)
売上高	4,157,944	3,828,707
売上原価	2,561,748	2,424,737
売上総利益	1,596,196	1,403,969
販売費及び一般管理費	1,228,486	1,276,571
営業利益	367,709	127,397
営業外収益		
受取利息	832	1,199
為替差益	2,304	—
助成金収入	9,287	6,583
保険解約返戻金	8,000	46,331
その他	763	655
営業外収益合計	21,188	54,771
営業外費用		
支払利息	1,379	998
為替差損	—	6,110
貸倒損失	—	10,754
事業構造改革費用	—	13,060
事業撤退損	6,900	—
その他	417	2,706
営業外費用合計	8,697	33,631
経常利益	380,200	148,538
特別利益		
固定資産売却益	7,140	—
資産除去債務戻入益	16,808	—
特別利益合計	23,949	—
税金等調整前四半期純利益	404,150	148,538
法人税、住民税及び事業税	150,511	97,213
法人税等調整額	7,439	5,562
法人税等合計	157,950	102,775
四半期純利益	246,199	45,762
非支配株主に帰属する四半期純利益	12,164	27,347
親会社株主に帰属する四半期純利益	234,034	18,415

四半期連結包括利益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年6月1日 至 2025年2月28日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年6月1日 至 2026年2月28日)
四半期純利益	246,199	45,762
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	△3,044	7,078
その他の包括利益合計	△3,044	7,078
四半期包括利益	243,154	52,840
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	230,989	25,493
非支配株主に係る四半期包括利益	12,164	27,347

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自 2024年6月1日 至 2025年2月28日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	DXソリューション事業	Techwise コンサルティング事業	ゲームコン テンツ事業	計				
売上高								
外部顧客への売上高	2,726,143	678,624	739,825	4,144,593	13,351	4,157,944	—	4,157,944
セグメント間の内部 売上高又は振替高	16,873	—	742	17,615	—	17,615	△17,615	—
計	2,743,016	678,624	740,567	4,162,208	13,351	4,175,559	△17,615	4,157,944
セグメント利益又は 損失(△)	687,261	185,513	44,102	916,877	△6,996	909,881	△542,171	367,709

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、飲食・スタジオ事業であります。

2. 調整額は、以下のとおりであります。

セグメント利益又は損失(△)の調整額△542,171千円は、セグメント間取引消去9,925千円及び各報告セグメントに配分していない全社費用△552,097千円であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの資産に関する情報

(子会社の取得による資産の著しい増加)

当第3四半期連結会計期間において、インテリジェントシステムズ株式会社を連結の範囲に含めたことにより、前連結会計年度の末日に比べ、「DXソリューション事業」のセグメント資産が148,242千円増加しております。

また、当第3四半期連結会計期間において、株式会社Almondoを連結の範囲に含めたことにより、前連結会計年度の末日に比べ、「Techwiseコンサルティング事業」のセグメント資産が589,835千円増加しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の著しい増加)

当第3四半期連結会計期間において、インテリジェントシステムズ株式会社を連結の範囲に含めたことにより、前連結会計年度の末日に比べ、「DXソリューション事業」において、のれんが23,493千円増加しております。

また、当第3四半期連結会計期間において、株式会社Almondoを連結の範囲に含めたことにより、前連結会計年度の末日に比べ、「Techwiseコンサルティング事業」において、のれんが473,858千円増加しております。

当第3四半期連結累計期間(自 2025年6月1日 至 2026年2月28日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	DXソリューション事業	Techwiseコンサル テイング事業	ゲームコン テンツ事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	2,264,269	761,669	802,768	3,828,707	—	3,828,707
セグメント間の内部 売上高又は振替高	4,651	10,923	2,450	18,025	△18,025	—
計	2,268,921	772,592	805,218	3,846,732	△18,025	3,828,707
セグメント利益又は 損失(△)	442,542	188,201	△5,041	625,702	△498,304	127,397

(注) 1. 調整額は、以下のとおりであります。

セグメント利益又は損失(△)の調整額△498,304千円は、セグメント間取引消去30,110千円及び各報告セグメントに配分していない全社費用△528,415千円であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年6月1日 至 2025年2月28日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年6月1日 至 2026年2月28日)
減価償却費	52,781千円	53,596千円
のれんの償却額	115,642	155,799